

**平成19年度 第1回
産業界から見た土木高等教育のあり方に関する検討小委員会
議事録**

日時：平成20年2月19日（火） 10：00～12：00

場所：土木学会 C会議室

出席者：村田、池田、井上、上野、河野、関根、正本、室井、吉川、吉原
(欠席：東、尾高)

- 議題
1. 委員の紹介
 2. 委員会設立の背景と目的
 3. 委員会開催までの活動状況
 4. 委員会関連資料の概要
 5. 委員会の進め方・検討方法
 6. その他

- 配布資料
1. 委員会名簿
 2. 委員会設立の背景と目的
 3. 委員会開催までの活動状況
 4. 建設技術研究会アンケート資料
 5. ASCEのキャリアパス紹介など
 6. 産業界から教育への提言
 7. 委員会の進め方について（案）

議事

自己紹介の後、村田委員長から資料の説明があり、委員会の進め方などを議論。
主要な意見を以下に示す。

■土木離れの現状について

- ・学生数が減り、土木の学生も減り、公務員への応募者も減っている。このような不人気のままでは土木界全体が衰退の一途となりかねない。
- ・建設会社や建設コンサルタントでも、30代前半で転職する若手が多い。
- ・土木の持つ多様さ、素晴らしさが初等・中等教育者に認識されていない。教育する側が、建設生産システムの変化など産業界の現状を知らないことも問題である。

■キャリアパス明示の必要性について

- ・キャリアパスを示すことで、教育界に対して我々が求めているものが明らかになる。
- ・土木を薦める親が少ないこと、入社後の転職が多いのは、土木のキャリアパスを示したものがないことが大きい。
- ・キャリアパスを示した就職用のパンフを作って大学や高校に配布すると、応募も増えるのではないか。
- ・就職説明会などで聞かれるのは、具体的にどんな仕事をするのかという事であり、企業としてもキャリアパスを示すのは意味がある。

■キャリアパスの作成について

- ・建設産業界には色々な仕事があるので、公務員、ゼネコン、コンサルなどに分けて、それぞれのキャリアパスを示すことが必要。（アメリカの例が参考になる）
- ・土木には様々なキャリアパスがあるので、各分野の代表的な人がどんな仕事をしてきたかを紹

介することも有効。

- ・キャリアパスを示すだけでは、希望のある業界というイメージには繋がりにくい。我々が行っている成果を併せて示すことも必要であり、土木の魅力アップについても議論しておくことが重要。

■建設産業界のイメージアップについて

- ・国民に建設産業界の役割を示し、認知されるような取り組みが必要。
- ・土木の裾野の広さを説明し、建設産業界には色々な仕事があることを示すことも大切。
- ・世間や学生のニーズは変わってきており、時代にあった切り口も必要。
- ・土木工学の素晴らしさを示すことも検討する必要がある。

■今後の進め方ほか

- ・小委員会は当面、ブレインストーミングを行いながら議論を深め、方向性を検討する。
- ・キャリアパスだけでなく、各社が作っているパンフも持ち寄って、土木のイメージアップも含めて検討する。
- ・建設産業界の多様さを考えると、活動をイメージできる小委員会の名前を考えることも大事であり、名称についても併せて検討する。
- ・土木学会教育研究論文集編集小委員会設立準備委員は、東委員にお願いする。

■次回小委員会 : 3月19日(午後3:00~)